

唱歌・叙情歌の虫

◎手のひらを太陽に 作詞：やなせたかし 作曲：いずみたく

〔 ぼくらは みんな 生きている 生きているから 歌うんだ
ぼくらは みんな 生きている 生きているから 悲しいんだ 〕 繰り返し
手のひらを太陽に 透かして見れば 真っ赤に流れる ぼくの血潮
みみずだって おけらだって あめんぼだって
みんなみんな 生きているんだ 友達なんだ
繰り返し
とんぼだって かえるだって みつばちだって
みんなみんな 生きているんだ 友達なんだ
繰り返し
すずめだって いなごだって かげろうだって
みんなみんな 生きているんだ 友達なんだ (振りをつけて歌うと楽しい!!)
これを名曲と言わずに、何を名曲というのだろうか。大人から子どもまで
これほど親しまれている曲は無い。

◎虫のこえ 尋常小学校読本唱歌 明治43年

あれ松虫が、鳴いている きりきりきりきり、きりぎりす
ちんちろちんちろ、ちんちろりん がちやがちやがちやがちや、くつわ虫
あれ鈴虫も、鳴きだした あとから馬おい、おいついて
りんりんりんりん、りいんりん ちよんちよんちよんちよん、すいっちょん
秋の夜長(よなが)を、鳴き通す 秋の夜長を、鳴き通す
ああおもしろい、虫のこえ ああおもしろい、虫のこえ

◎赤とんぼ 作詞：三木露風 作曲：山田耕筰

夕焼小焼の、赤とんぼ 十五で姐(ねえ)やは、嫁に行き
負われて見たのは、いつの日か お里のたよりも、絶えはてた
山の畑の、桑の実を 夕焼小焼の、赤とんぼ
小籠に摘んだは、まぼろしか とまっているよ、竿の先

◎夕方のお母さん

作詞：サトウ ハチロー作曲：中田喜直
カナカナぜみが 遠くで鳴いた
ひよこの母さん 裏木戸あけて
ひよこを呼んでる ごはんだよ
やっぱりおなじだ おなじだな

◎緑のそよ風

作詞：清水かつら 作曲：草川信
みどりのそよ風 いい日だね
蝶蝶もひらひら 豆のはな
七色畑に 妹の
つまみ菜摘む手が かわいいな

◎野菊 作詞：石森延男 作曲：下総皖一

遠い山から吹いて来る 秋の日ざしをあびてとぶ
こ寒い風にゆれながら とんぼをかるく 休ませて
けだかく きよくにおう花 しずかに咲いた野べの花
きれいな野菊 うすむらさきよ やさしい野菊 うすむらさきよ

◎庭の千草 作詞：里見義 アイランド民謡

庭の千草も むしのねも 露にたわむや 菊の花
かれて さびしく なりにけり 霜におごるや 菊の花
ああ しらぎく 嗚呼 白菊 ああ あわれ あわれ 嗚呼 白菊
ひとり おくれて さきにけり 人の 操も かくてこそ

○埴生の宿

作詞：里見義 アイルランド民謡
埴生の宿も 我が宿 玉の装ひ 羨まじ
長閑也や 春の空 花はあるじ 鳥は友
おゝ 我が宿よ たのしとも たのもしや

書読む窓も 我が窓 瑠璃の床も 羨まじ
清らなりや 秋の夜半 月はあるじ むしは友
おゝ 我が窓よ たのしとも たのもしや

○ちょうちょう

作詞：野村秋足 スペイン民謡
ちょうちょう ちょうちょう
菜の葉に とまれ
菜の葉に あいたら
桜にとまれ 桜の花の
花から 花へ
とまれよ 遊べ
遊べよ とまれ

○あなたもわたしも

作詞：谷口清・サトウハチロー(補作) 作曲：中田喜直

あなたもわたしも ぼくもきみも 春にはつばめで 秋は雁かり
ちいさいむかしが 同じです もんしろちょうちょうに 赤とんぼ
おんぶでおころり ねんねんよう あなたもわたしも ぼくもきみも

○もんしろ蝶々のゆうびんやさん

作詞：サトウハチロー 作曲：中田喜直

もんしろ蝶々の ゆうびんやさん もんしろ蝶々の ゆうびんやさん
朝から配達 朝から配達 セッセと配達 セッセと配達
あねもね横町 十番地 ひなげし通りの 六番地
角から二軒目 ハイ ゆうびん まっかな看板 ハイ ゆうびん

○絵日傘

作詞：大村主計 作曲：豊田義一

桜 ひらひら 絵日傘に まわす絵日傘 花吹雪
蝶々もひらひら きてとまる ひばりもぴーちく 来てあそぶ
うばのお里は 花の路 うばのお里は 春がすみ
すみれの花も たんぽぽも 絵日傘くるくる 通りゃんせ

○お母さん おぼえていますか

作詞：北原節子 作曲：高田信一

島田祐子の歌では、歌の始まる前に台詞が入っている。この台詞に特徴がある。
「あのチョウチョとって。」駄々をこねた私
「チョウチョだって一人ぼっちになったら寂しいのよ。」やさしくそう言ったお母さん。
涙ぐんで見上げたらお母さんの瞳の中にも小さなチョウが舞っていました。
あれから何年たっでしょうね、お母さん。
思い出だけはいつも私の胸の中で「ひらひら」と舞い続けています。

お母さん おぼえていますか お母さん
まだアパートの 一部屋(ひとへや)のころ
遠い高原に いきましたね
冷たい水と 甘い空気を いっぱい飲みましたね
峠で お父さんて よびましたね
お母さん 黄色いお帽子でしたね

○白月

作詞：三木露風 作曲：本居長世

2010年全日本学生音楽コンクール 【予選】大学・一般の部 課題曲
照る月の 影みちて 吹く風の 音さえて
雁(かり)がねの さおも見えずよ 秋草の 虫が集(すだ)くぞ
わが思う 果(はて)もしらずよ 何やらん 心も泣くぞ
ただ白し 夜の月夜は 泣あかせ 秋の月夜は

その他の歌として

おつかいありさん、ぶんぶんぶん、黄金虫、蛍、てんとう虫のサンバ、すずむしかたつむり、こおろぎ、ほたるこい、夏は来ぬ、とんぼのめがね etc
思いつくまま多数・・・とにかく虫が歌い込まれている歌は非常に多い。

アニソン(アニメソング)の虫

○キャンディ ワルツ

歌 堀江美都子 作詩：丘灯至夫 作曲：渡辺岳夫
あまいかおりは バラのはなよ
ゆめのよう うでをくんで
おどりましょ おどりましょ
キャンディワルツ
あなたははなかしら わたしはちょうちょ
おどりましょ おどりましょ
よのあけるまで
おどりましょ おどりましょ
キャンディワルツを
おどりましょ おどりましょ
よのあけるまで
キャンディワルツを おどりましょ



○てんとう虫の歌

歌 堀江美都子、こおろぎ'73
作詞：川崎のぼる、若林一郎
作曲・編曲：菊池俊輔
ぼくらは七つの 星なのさ
夜空にかがやく 星じゃなく
てんとう虫の 羽の上
なかよくならぶ 星なのさ
そうさ 太陽の光に はばたいて
ぼくらはきょうだい
希望にもえる
てんとう虫



○昆虫物語みなしごハッチ

「みなしごハッチ」



ゆけゆけハッチ
みつばちハッチ
とべとべハッチ
みなしごハッチ
姿やさしい
もんしろ蝶々

おどけバツタに テント虫
みんな友達 仲間だけれど
母さんほしかる 恋しかる
ゆけゆけハッチ みつばちハッチ
とべとべハッチ みなしごハッチ
ハッチ

ハッチとお母さんの再会場面は涙なくして見ることはできない。子どもから大人まで泣いた。

その他の挿入曲では「ポルカで踊ろう」「虫の数えうた」「虫のチャチャチャ」「虫のマーチ」「別れのうた」などに多くの虫が登場する。何しろ「昆虫物語」であるから虫がたくさん登場するのは当たり前である。

ここでハッチのお話を科学的観点から見てミツバチやその他の虫の生態を論じるというのは無粋というものであろう。

○みつばちマーヤの冒険 (Die Biene Maja und ihre Abenteuer)
 原題"Die Biene Maja" Waldemar Bonsels 1912年発表の児童文学

雨上がりの虹は とてもきれいですね マーヤ
 果てしなく広がる 青い空の向こう
 どこかに咲くという 夢の花を
 探し求めて いま旅立つ
 おお冒険マーヤ ちびすけマーヤ
 みつばちマーヤ

(注)マーヤは女の子である。

アニソンという領域は最近生じたもので、伝統的な唱歌や叙情歌の影響をあまり受けていないように見える。それでも虫は登場する。

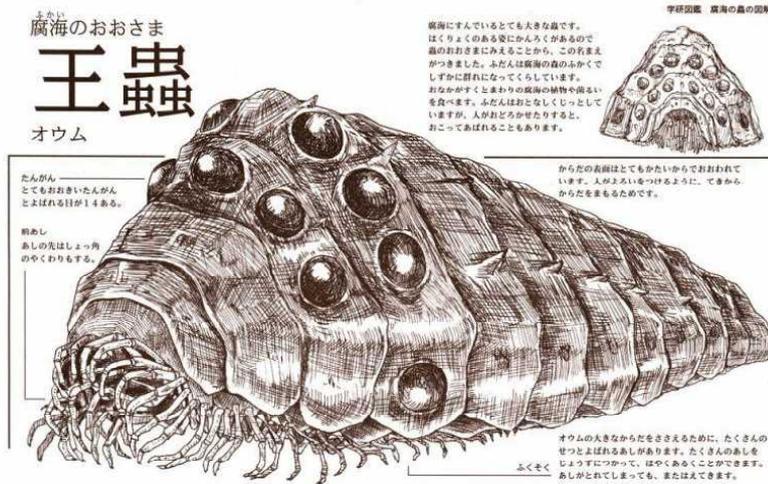
映画のむし

○モスラの歌 作詞：由起こうじ 作曲：古関裕而 歌：ザ・ピーナッツ

モスラヤ モスラ
 ドウンガン カサクヤン
 インドウムウ
 ルスト ウィラードア
 ハンバ ハンバムヤン
 ランダ バンウンラダン
 トウンジュカンラー
 カサクヤーンム
 モスラヤ モスラ
 モスラヤ モスラ…



○風の谷のナウシカ



モスラや王蟲の扱い方がハリウッド映画とは全く異なる。ハリウッド映画では「虫」は
 訳も無くぞろぞろと出てきて、人を襲い恐怖に陥れる。日本映画でも「虫」は恐慌をもた
 らすが、同時に「虫」に寄り添おうとする姿勢、「虫」を啓示として理解しようとする態度
 が描かれる。日本映画では、虫は最後には愛されて去って行く。

◆おまけ

○てんとう虫のサンバ 作詞：さいとう大三 作曲：馬飼野俊一

あなたと私が 夢の国 森の小さな 教会で 結婚式を あげました
照れてるあなたに 虫達が 接吻せよと はやしたて

そっとあなたは くれました

赤 青 黄色の 衣装をつけた てんとう虫が しゃしゃり出て

サンバにあわせて 踊り出す 愛する二人に 鳥達も

赤いリボンの 花かごと 愛の接吻 くれました

虫が結婚式の招待客と言うから驚きである。ハリウッド映画ではあり得ない。
私たちは、別に不思議にも思わずお祝いの席で歌う。

○ Mothra

Mothra Ya Mothra

Dengan Kesaktian Hidupmu

Regtulah Doa Hamba Hambamu Yang

Renda Bangunlah Dan Tunjukanlah Kesaktianmu

Mothra Ya Mothra

Dengan Hidupamu Yang Gemilang

Lindungilah Kami Dan Jadilah Pelindung

Perdamaian

Perdanaian Adalah Hanya Jadian Yang

Tinggal Bagi kimi

Yang Dapat Membawa Kami Kekemak Muran

Yang Abadi

モスラよ モスラ あなたの命の魔力で
身分卑しき、貴方の下僕は呪文を唱えて祈ります
どうか起ち上がって 貴方の魔力を見せてください

モスラよ モスラ 光輝くあなたの生命で
平和をもたらす守り神となり われらを守りたまえ

モスラヤ モスラ

ドゥンガン カサクヤン

インドゥムウ

ルスト ウィラードア

ハンバ ハンバムヤン

ランダバン ウンラダン

トゥンジュカンラー

カサクヤーンム

合唱曲のむし

女声合唱組曲 蝶

作詞：伊藤海彦

作曲：中田喜直

1. 誕生 2. 飛翔 3. 灰色の雨 4. 越冬 5. よみがえる光
の5曲からなる歌。昭和44年度芸術祭優秀賞受賞作品
残念ながら、あまりと言うか少しもおもしろくない歌・・・。

蝶の谷

作詞：名村宏 作曲：坪能克裕

誰も知らない 冬の谷間に
むらさきの 羽根をとじて
風にたえてる 蝶の群れ

春がめぐって 来ようとも
むらさきの 色はあせて
夏を越せない 蝶の群れ

いくたびか 変身の蝶よ
永遠に 飛び続けたいなら
蝶の姿を 捨てて
心だけに 変わらなさい

いくたびか 変身の蝶よ
永遠に 舞い続けたいなら
過去のまぼろし 捨てて
風のように 変わらなさい

名曲である。

「”蝶の谷”は何処にあるんですか？」という問い合わせが良くあるそうであるが、名村宏によると「誰も知らない 冬の谷間に あるんで、誰も知らない」とのことである。名村宏の答えも秀逸である。

以上、虫について簡単にまとめてみた。いつか時間があれば、もっと内容を深めてみたいと考えている。

滅びるさだめの 蝶よ
そんなにも 悲しむことはない
たった一度も 飛べずに
土へかえる 命もある

滅びるさだめの 蝶よ
大空を 飛び続けたいなら
いつか天使に なれると
信じながら 眠りなさい

風が冷たい 冬の谷間に
むらさきの 羽根を寄せて
春を夢みる 蝶の群れ